

令和4年 支部投稿

目黒支部

清宮 功士

目黒区体育祭秋季大会「柔道大会」

令和4年10月23日(日) 第61回 目黒区体育祭秋季大会「柔道大会」が、目黒区中央体育館に於いて爽やかな秋晴れの中行われました。目黒支部では、救護係として水柿賢一郎支部長と清宮が参加しました。

例年より参加者が少なかった様ですが、選手の子供たちは日頃の稽古の成果を存分に発揮し、良い試合が多く見られました。

救護では軽度の脳震盪の選手が数名出ましたが、他は擦過傷等の軽い外傷にて大きな怪我も無く、大会終了後には役員の方から感謝の言葉を頂き無事に終わることができました。

我々も、日ごろから柔道整復師としての本来の業務である応急処置について、知識やテクニックを磨いておくことの必要性を改めて確認・実感いたしました。



目黒区民まつり ほねつぎ健康相談

令和4年10月9日(日) 目黒区田道ふれあい広場にて、3年ぶりに「目黒区民まつり」が開催されました。イベントの目玉である無料のサンマの提供は、今回コロナ対策もあって、事前抽選で当選された方のみ1000匹の提供となりました。また、政府による行動制限がない状況でしたので、コロナ前に近いくらいの人出が午前中はずっとあったように思いましたが、来場の方はマスクの着用、会場のテナントごとの手指の消毒の徹底、出来る限りの3密回避に気を付けていました。

当支部は、「ほねつぎ健康相談」を開催し、水柿会員・喜島会員・首藤会員・斎藤会員・倉林会員・清宮会員・望田会員・岡田会員・薛会員・笹嶋会員・吉村会員・飯田の12名が参加しました。「ほねつぎ健康相談」には、男性15名・女性8名の方が来店されました。年齢層は70～80歳代が最も多く、次いで40～50歳代の方でした。

相談の内容は、首から肩の痛み・腰部から下肢の痛みについて多くみられ、下肢の筋力低下を気にされていて身近にできる運動法を相談される方もおられました。私たち会員も来場者の相談内容にじっくりと耳を傾け、時間をかけて丁寧な伝え方を心掛けました。

コロナ以前のような日常に戻るには時間が



かかりそうですが、少しずつ、行動範囲が広がり、外に出て隣人とのコミュニケーションが出来つつあることは、安心感を取り戻せてきているともいえ、大切なことだと深く感じる事が出来ました。

接骨院の運営は依然厳しい状況ではありますが、来院された患者さんに対して誠心誠意・真摯に向き合っていくことは決して変わることなく日々の施術に取り組み、地域に貢献していきたいと思っていました。

世田谷支部

田中 雪枝

敬老の日イベント(健康測定会・介護予防教室)

毎年敬老の日、世田谷区立千歳温水プールにて「無料健康測定会」が行われており、私達世田谷支部も介護予防教室を担当しているメンバー数名でお手伝いに行っています。コロナ禍でもあり、今回3年ぶりに参加致しました。

60歳以上の方とそご家族を対象に、
①体組織測定：筋肉と脂肪の割合、筋肉バランス、体の構成成分等を測定しました。
②健康相談：測定結果の解説と運動アドバイス等を温水プールのトレーナー達と我々柔道整復師が行いました。その後、高齢者を対象とした介護予防体操をしました。



当日は台風の影響もあり、朝から大雨や強風があるかもしれないと天気予報で聞いていました。

家を出た時は、なんとか天気は曇りになりましたが、やはり台風が来るということで人が集まるか不安でした。しかし、30分前から所定の椅子に腰を掛けられ、順番を待ってくださっている方を見て安心しました。

In body による筋力・脂肪の測定があり、ロコモドテスト、握力を測定します。身長を測り in body の測定機に数値を入力しますが、皆さん声を揃えて以前より身長が低くなったと呟いていました。

前半は測定をして、後半は私達が主導し歩行と姿勢についての講話・ストレッチ体操・世田谷いきいき体操・脳トレをしました。みなさんが楽しそうに体操をしている姿を見て、ほっとしました。

健康相談をしても、皆さんみなさんとても健康意識が高いように思いました。いつもここに来て、プール・フィットネスをされている方が殆どで、体操を教えていても皆さん歯切れ良く身体を動かして

いました。その中に、最近長野県から引っ越して来たばかりで、長野では公民館で体操をしていたので、是非東京でも続けたいという方がいました。幾つになっても身体を動かすことは大



切な事だと改めて思いました。

短い時間ではありましたが、また来年もみなさんと一緒に、千歳温水プールで体操ができたらと思いました。1年後のみなさんは、体力は維持できているのだろうか？そして、自分の体力はどうなっているのだろうか？まずは、自分の心や身体を健康にし、そして皆さんと共に健康意識を高めていければと思いました。1人では中々運動は続けられません。一緒に参加する仲間がいるから、楽しく身体を動かせるのだと思います。

また来年もここで会いましょう。とみなさんと別れました。私がおばあちゃんになっている頃、若くて元気な体操を教えてくれる先生や仲間たちと一緒に体操をしている姿が、ふと頭をよぎりました。あと何年後なんでしょう??

第 58 回 区民スポーツ祭り

令和 4 年 10 月 16 日(日) 世田谷区総合運動場・大蔵第二運動場に於いて「第 58 回 区民スポーツ祭り」が開催され、世田谷支部から塩部・小沼(泰)・田中・徳永(正)・立原・熊谷・菱沼・吉井・沼宮内の 9 名が参加しました。

コロナ禍だったこともあり、昨年・一昨年と参加出来ない状況が続いていましたが、今回は感染対策を行いながら 3 年ぶりに参加することが出来ました。

今回世田谷支部では「スポーツ現場での応急処置と熱中症の正しい対応」を来場者にして頂くということに併せて、柔道整復師の正しい業務内容をアピールする為のプログラムで参加し、「RICE 処置」「捻挫とは」「骨折とは」「熱中症対応」と題した 4 つのタペストリーを見ながらそれぞれ説明を行い、最後に簡単なテスト受けて頂いた後、正解者には景品を配るという形のブースを作成しました。



老若男女問わずご来場頂きましたが、特にお子さん連れの親御さんが熱心に説明を聞いて下さり、またご質問を頂くことも多く、応急処置等への関心の高さが窺えました。

過去に参加した形とは違い、初めての試みだった為不安もありましたが、各会員がそれぞれの役割をしっかりと果たし、200 名以上の来場者があったにも関わらず大きな問題



も無く、最後には用意した景品が無くなるほどの盛況で、テスト問題に正解をして景品が貰えた子供たちの笑顔と相俟って大変有意義な一日となりました。

このような多くの人が集まるイベントで、柔道整復師をアピール出来たことは大変喜ばしく思うと同時に、より一層ご理解頂くために努めていかなければならないと思いました。

広報通信担当員 山下 裕彦

第17回 世田谷 246 ハーフマラソン

今年も11月13日(日)「第17回 世田谷 246 ハーフマラソン」が駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場で開催され、当支部より6名の会員が参加し救護を行いました。

当日は駒沢オリンピック公園を拠点に、国道246号線をはじめ区内の主要道路を駆けるハーフマラソンと、陸上競技場のトラック周回をするタイムトライアルが実施され、午後から雨の予報でしたが天気もなんとか持ち堪え無事に開催されました。



今年もコロナ対応の大会で、スタート前に行っていたランナーズブースでの負傷予防活動が無くなり、また密を避けるためスタートの後に会場入りして欲しいとの事で、迫力あるスタートが見られなかったことは残念でした。予定通りスタート後に会場入りし、世田谷区長と世田谷スポーツ財団の石崎理事長に挨拶してから救護に取り掛かりました。ハーフマラソンが行われた午前中は気温が高く、脱水症状が多く発生した為、我々は担架を持



って走り回ることとなり、休む間もない忙しさとなってしまいました。倒れた中に大学のエリートランナーもいましたので、やはり長距離には過酷な環境だったようです。中でも一人、酸素飽和度が60%台まで下がり、血圧が100まで上がらない若者がいて救急搬送されました。他にも、顔面の擦り傷や打撲、下腿の痙攣など多数発生し、大会側が用意した記録用紙が無くなるほどでした。

今後の課題も見つかりましたが、年々いい大会になっているように思えます。救護についても今年はとても忙しい状態でしたが、非常に充実した救護活動が出来たように思えます。今後も「救護活動といえば柔道整復師会」と言われるように頑張っていきたいと思えます。

豊島支部

広報通信担当員 岩楯 顕

臨床実習

令和4年6月1日～令和4年8月31日、当院に於いて柔道整復師養成校学生の臨床実習を行いました。この実習は私の母校でもある、学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校の学生の実習を、(公社)東京都柔道整復師会会員の接骨院にて実施しているもので、当院でも令和元年より学生を受け入れております。今回の実習では3年生の昼間部7名、夜間部2名、計9名の学生の指導に当たりました。

養成学校より、今回の実習で実際に施術所を見学し柔道整復師の業務を学ぶことで理想と現実のギャップをなくし、働くことの

厳しさや仕事のやりがいを感じ、今後の学生生活・自身の将来像を描くための重要な教育の場としているとの趣旨を受け、学校規定の評価項目に準じて学生を評価いたしました。



実際の実習で私が心掛けている点としては、なるべく学校の授業では教えてもらえないことを中心に学生本人に話し、実際に見せ、体験させるということです。また、現状の柔整業界は残念ながら個人契約のグループ系接骨院が多く、ゆくゆくはそのような院で働くことをイメージしている学生が非常に多いと感じます。そのために、公益社団主導の臨床実習の目的でもある、学生に「正しい柔整施設」と「受療委任制度による保険請求」をしっかりと理解してもらえることを重要視しています。



学生たちの多くは非常に意欲的で、皆熱心に実習に臨んでいる印象です。しかし、残念ながら中には学習意欲の低い学生がいることも事実です。先輩方や我々が学生だった頃と現状の学生を取り巻く状況は大きく変わってきております。故に、全ての学生を我々公益社団会員と同じ方向を向いてくれるよう導くことは難しいとも感じております。あくまで個人的な想いですが、当院で実習をうけた学生が一人でも多く「正しい柔整師」として今後の柔整業界を歩んで行けるよう、そっと背中を押してあげられるような実習を行っていきたいと考えております。

高体連柔道大会

令和4年9月23日(金・祝)巣鴨高等学校柔道場に於いて「第72回 東京都学年別柔道大会 東京都第3支部予選会」が開催され、豊島支部より救護要員として大澤会員・岩楯が参加して参りました。大会には、男子団体戦 1 学年の部・2 学年の部を合わせて延べ 24 校と女子個人戦に 24 名がエントリーし、熱戦が繰り広げられました。前回の救護同様コロナ禍中での大会である為に、十分な換気・手指の消毒・試合中の選手以外はマスク着用等の感染対策が徹底されており、また一部の選手・学校は出場を見合わせるなど、緊張感漂う中での開催となりました。

救護については負傷者・要救護者はおらず、無事に大会が終了し安堵いたしました。今大会も指導教員の先生方・出場選手ともにしっかりと感染対策を徹底しており、こうした地域の学生柔道大会にまでガイドラインが周知さ



れていることに感服いたしました。他の競技でも大変参考になるのではないかと考えます。

しかしながら、今大会はエントリー済でも未出場の選手・学校が多く見受けられ、少々寂しい大会であったと感じます。いろいろと状況が変化してきているとはいえ、新型コロナウイルスの感染状況も予断を許さない状態が続いており、柔道のみならずスポーツ選手の皆さんにとっても我慢を強いられる辛い状況かと思いますが、一日も早く通常通りに試合や大会が開催できる日常に戻ることを切に願うと共に、今後も地域の競技者の皆さんに貢献できるよう豊島支部員一同引き続き努力して参ります。

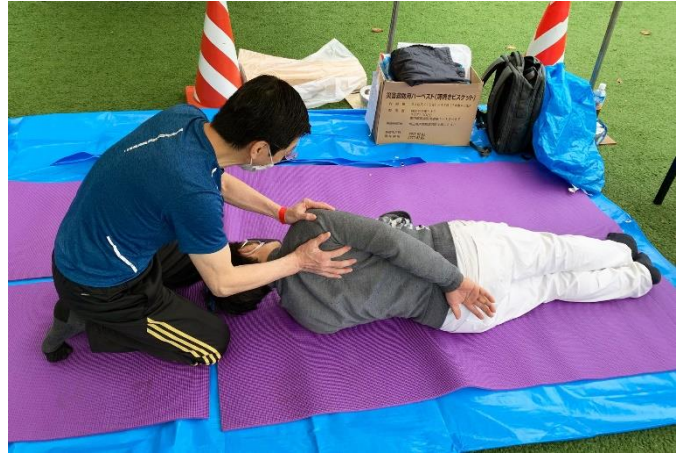
としまスポーツフェスタ&としま DOKIDOKI 防災フェス 2022

令和4年10月日(月)祝 10時から15時まで、豊島区立総合体育場に於いて「としまスポーツフェスタ2022」が、10時から16時まで、としまみどりの防災公園(IKE・SUNPARK)に於いて「としま DOKIDOKI 防災フェス 2022」が実施され、豊島支部より無藤支部長・野原会員・熊谷会員・大澤会員・酒井会員・海津会員・及川達平準会員・岩楯の8名がそれぞれの会場・担当を割り振り参加しました。

このイベントは、例年別日程で行われていた2つのイベントを豊島区制施行90周年記念事業と

して同時開催したもので、隣接した2つの会場で行われたこともあり、多くの来場者で賑わいました。

スポーツフェスタの会場では例年通り「スポーツコンディショニングコーナー」を出展し、柔軟性測定や大好評の「クイズ深めるスポーツとからだ」、こちらも大好評の野原会員による熱血指導を中心とした「ストレッチング・運動に向けたコンディショニング法講座」などを実施し、多くの来場者が訪れました。



また防災フェスブースでは、自衛隊・警察・消防による災害活動用車両展示や災害救助訓練実演・AED 体験・防災に関するブース展示・体験型脱出防災アトラクション・VR 体験など様々な企画が行われました。我々豊島支部は、ブースにて Y シャツやコンビニエンスストアのビニール袋を使っの提肘や、雑誌・サララップ・お玉・ハンカチ・割りばし等を使った固定などの、身近にあるもので応急処置に使える物の紹介と使用法の説明、三角巾による提肘実演などを行い、多くの区民に来場していただきました。

今回は初めての同日開催ということもあり、人間的にもかなり大変ではありましたが、多くの来場者に柔道整復師会をアピールできたのではないかと思います。今後も行政からのお声掛けに応え、地域の皆様に我々柔道整復師会会員がお役に立てるように尽力して参ります。



令和4年度 支部学術研修会

令和4年9月17日(土) 赤羽会館に於いて、令和4年度 東京都柔道整復師会北支部「学術研修会」を行いました。10名の会員が参加し、新型コロナウイルスの感染症対策を十分に実施し開催致しました。

学術研修会の前に支部長、各部からの報告から始まり、今年度開催予定である事業の確認、各公益活動に参加するメンバーの最終確認を行いました。学術研修会では、前回に引き続き大規模災害時に備えた頭部の固定包帯に加え、三角巾での圧迫止血法について研修しました。前回の研修では戸惑う場面もありましたが、今回は各会員がしっかり復習しており、頭部固定の感覚にも慣れてきた為スムーズに進行する事ができました。



新型コロナウイルスによる行動制限も緩和されてきましたが、厳しい状況であることには変わりません。公益活動で柔道整復師の存在をアピールし、理解してもらうことが大事であると思いました。その為には柔道整復師会が一丸となり協力し合い、この状況に立ち向かっていかなければならないと思いました。

令和4年度 防災訓練

令和4年10月15日(土) 花と森の東京病院にて「令和4年度 災対医療衛生部本部と区災対本部の連携及び花と森の東京病院緊急医療救護所設置・運営等訓練」が開催されました。

主に災対医療衛生部本部立ち上げ、緊急医療救護所、トリアージエリアの立ち上げ、新型コロナウイルス対策を踏まえた緊急医療救護所の運営、防災無線による連携、連絡の訓練を目的として行われました。北区保健所・北区医師会・北区歯科医師会・北区薬剤師会、そして花と森の東京病院の医師・看護師・理学療法士の方々が参加され、東京都柔道整復師会北支部からは塩見支部長・渡部会員・延島の3名が参加し、軽傷エリアを担当しました。

柔道整復師会は、トリアージ後に医師が診断した傷病者のカルテをチェックし、必要に応じた応急処置を実施しました。また傷病者の容態の急変や処方箋が出されている等があれば、各専門のエリアに誘導するという内容でした。

前回までは新型コロナウイルスの影響で大人数での訓練ができませんでしたが、今回は模擬患者の人数を増やして行われたこともあり、素早い状況判断と応急処置が必要になりました。全員が緊張感をもって取り組み、とても良い雰囲気での訓練ができたことは自信にもなり、良い経験となりました。



第21回 北・水辺ウォーク

令和4年11月3日(木・祝)「2022 第21回 北・水辺ウォーク」が開催されました。晴天にも恵まれ秋のさわやかな風を感じながら、荒川土手の青空とみどりのコントラストの中を多くの北区民が参加し歩きました。

運営には北区役所の職員・ボランティアの大学生も集まり、柔道整復師会からは塩見支部長・山本会員・吉田会員・延島が救護班として参加しました。

救護テントの設営・ベッドの搬入・救護者の処置が主な内容となりました。大きな怪我もなく無事にイベントを終えることができましたが、ウォーキング後に身体の痛みを訴える参加者が救護所に立ち寄りました。予診票の記入をしてもらい問診の後、手寧な説明をしてから必要に応じて施術をしました。

膝の痛みを訴える参加者が多く、やっとの思いでゴールしたという参加者から、施術後に「足が軽くなり楽に歩けるようになりました。ありがとう」という言葉を頂き、とても嬉しい気持ちになりました。



これから新型コロナウイルスの影響で中止されていたイベントが再開されるようになり、公益活動も増えていくと思います。柔道整復師という仕事を理解してもらえるように、公益活動を通して地域貢献に努めていきたいと思いました。

金子 明彦

小・中学校 PTA 連合会スポーツ大会 バドミントン大会

令和 4 年 11 月 3 日(木・祝) 滝野川体育館に於いて「小・中学校 PTA 連合会スポーツ大会 バドミントン大会」が開催され、北支部から金子が救護班として参加致しました。

区内の小・中学校の PTA 連合会が主催となるこの大会ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実に 3 年ぶりに開催となりました。各小・中学校の父兄や OB で構成されたバドミントンチーム 11 校が参加し、この日は秋晴れで気温も高く会場は熱気に満ちていました。

開始後 1 時間程経過すると、アキレス腱や腓腹筋の損傷が続き、適切に処置を施しました。



その後はコンディショニング調整や、肩・膝のケア・テーピングを希望する方で、救護室前は多数の希望者が待機する状態となり、最終的に 23 名の選手に施術を行いました。

バドミントンの負傷者、痛みを抱えている方の多さに想像以上に激しいスポーツであることを再認識しました。各種スポーツ大会では、多数の外傷処置やテーピングなどの貴重な経験が出来ます。競技により怪我の特性は異なりますが、私たち柔道整復師には、様々な現場で活躍が出来る知識や技術が必要であると思いました。

広報通信担当員 針谷 泰介

北区小中学校 PTA バレーボール大会 親善試合

令和 4 年 11 月 23 日(水・祝) 滝野川体育館に於いて「北区小中学校 PTA バレーボール大会 親善試合」が開催され、北支部から吉田会員・針谷が救護班として参加致しました。

北区立小学校 PTA 連合会が主催となり、区内の小・中学校 29 校が参加をしました。新型コロナウイルス感染症の影響により 3 年ぶりの開催となりましたが、主催された大会役員の方々の、「どうしたら開催が出来るか?多くの方に参加をして欲しい」との思いが伝わるよ



うな、工夫が随所に見られました。試合は 9 人制で、コロナ禍でチームが組めない学校は合同チームで参加していました。また、午前と午後にチームを分け、順位付けをしない親善試合として行われました。

事前に大会役員の方から、怪我を予防するために準備体操やストレッチを任せたいとの要望を受けており、針谷が担当をしました。通常の体操に加えて肩周りのストレッチ、膝や足首の体操を重

点的に取り入れました。そして参加者全員で相撲の四股を踏んで体を温めました。この日は雨で気温も低かったのですが、体育館内は選手たちの熱気で溢れ熱戦が繰り広げられました。救護ブースの利用は 3 件で、それぞれ顔面部・膝部・足趾部の打撲のみで大きな怪我もなく無事に終了しました。

今年度は、3 年ぶりに開催される各種スポーツの大会が多くあります。各地区での救護活動は私たち柔道整復師が最も活躍が出来る現場であり、包帯処置やテーピングなどの経験を積める貴重な場でもあります。今後も積極的に救護活動に参加をして技術を磨き、地域に貢献をして行きたいと思います。



板橋支部

広報通信担当員 石黒 富士明

第 26 回 板橋区医師会医学会

令和 4 年 12 月 3 日(土)、4 日(日) 板橋区立文化会館において、標記の学会が開催されました。3 日は演題発表、4 日は一般公開講座の 2 部で構成されています。

この医学会は、板橋区医師会が門戸を開き、医師以外の多職種も参加して開催されます。当区には 2 大学病院・2 公社病院・1 医師会病院と拠点病院があり、それらに付属する看護学校、また区内の中小病院や各医院、そして他の三師会(歯科医師・薬剤師・柔道整復師)がそれぞれの研究発表を行います。当会からは、藤原祥了支部長・山本清会員・松崎政弘会員の 3 名が演題発表を致しました。

第 1 演者の松崎会員は『橈骨頭骨折に対するシリンドーキャスト固定の 1 症例』を演題として発

表しました。前腕回旋拘縮を発生する事無く関節可動域訓練を行え、転位軽度の本骨折に対しリンダーキャスト固定は有用でありましたので症例と効果を発表しました。

第2演者の山本会員は『柔道整復師としての primary care とは』を演題として発表しました。運動器外傷の「スペシャリスト」としての柔道整復師は「ジェネラリスト」としての力も備えて、少子化と高齢化を迎えるにあたり、患者さんに対し安心・安全な医療を提供し信頼を得る事になると確信し発表しました。

第3演者の藤原支部長は『新型コロナによる患者様の来院動向 ～初期・令和1年1月～令和4年6月まで～』を演題とし発表しました。施術者・施術所等の衛生状況を完璧にすることで、患者が安心を得ると、際立った患者の来院減少は見られなかったことを発表しました。

藤原支部長・山本会員・松崎会員、症例発表ありがとうございました。一人でも多くの会員が症例発表出来る様、研鑽を積んでいてもらいたいと切に願っております。



南多摩支部

太田 響平

令和4年度 稲城市地域防災訓練

11月6日(日) 多摩河原橋近くの河川敷にて「稲城市地域防災訓練」が行われ、矢口支部長・野村地区長・佐々木会員・太田の4名で参加した。今回の訓練では、災害医療連携訓練として医師会・歯科医師会・薬剤師会と共に活動し、柔道整復師は軽症治療班と搬送班に分かれ訓練を行った。

午前9:00に震度6強の地震が起こったという想定で訓練は開始された。負傷者は受付にて歯科医師にトリアージを受け、軽症者は医師の指示の下、柔道整復師の処置を受け、薬剤師に薬をもらう。重症・中等症者はテント内に搬送され、柔道整復師と市職員の方が救急車等の搬送調節を行った。また、一般の方たちの防災訓練も開催され、地震体験や災害時伝言ダイヤル体験等のブースが設置された。市民の方々も多く参加されていて、災害時の対応を考える良い機会となったのではないかと感じた。



今回の防災訓練では、災害発生時の受付体制・役割を確認し把握することで、災害発生時をイメージしながら参加する事が出来た為、有意義な時間となった。また、対応の遅れ、動線の把握等の課題も見つかった。訓練内容を復習し災害時に迅速かつ正確な判断、対応が出来るよう努めたい。



広報通信担当員 小林 聡勸

令和4年度 総合防災訓練 医療救護活動拠点

令和4年10月30日(日) 八王子市立石川中学校で、多摩地域を震源とするマグニチュード7.3・震源の深さ約20~35km・最大震度7の大地震が発生し、付近では木造住宅の倒壊があり火災による延焼被害も拡大。倒壊家屋や倒木により車両に閉じ込められる等の要救助者が多発発生。

道路の損壊・交通機関・通信・電気・ガス・上下水道等にも被害が発生したという、かなり酷い被災状況を想定しての「総合防災訓練」が開催されました。9:00 になり、IP 無線で連絡を取りながら行われるシェイクアウト訓練から開始されました。



八王子市医師会・八王子薬剤師会・八南歯科医師会・八王子市職員・保健所職員と、我々柔道整復師として矢口支部長・畝本会員・小林が参加しました。同時に、校庭や体育館も使用し体験会や実働訓練も行われたようです。医療救護活動拠点訓練や避難所アセスメント訓練、事務所本部設置訓練と題された訓練で、発生直後から市医療救護活動拠点の活動開始、緊急医療救護所における医師不足への対応、緊急医療救護所における傷病者の搬送、柔道整復師会への緊急医療救護所応援要請、緊急医療救護所における不足医薬品の調達、歯科医師会に対する口腔内の治療依頼、緊急医療救護所からコロナ妊婦の搬送と、7 つの事案を細かい流れを確認しながら、市医療部局による本部機能訓練、避難所における保健衛生活動の方針を決定する訓練などを行いました。



災害時に実際行われる指揮系統の細かい流れをみることで、よりトリアージや応急処置などの災害時活動のイメージが湧きやすくなり、動きやすくなるのではないかと思います。

令和4年度 東京都高等学校体育連盟 柔道専門部第四支部新人大会

令和4年11月27日(日) 日本工学院専門学校にて「東京都高等学校体育連盟 柔道専門部第四支部新人大会」の救護活動に井上会員・白川の二名で参加してきました。感染症対策のため試合以外のマスク着用、無観客の中での開催でした。



男女の個人戦・団体戦と試合数の多い中、選手は集中して試合に取り組んでいました。また、今回は新人大会ということで個人戦に無段の部があり、白帯同士の熱い戦いも繰り広げられ盛り上がりました。

本日の救護活動では軽症者2名の対応をしました。救護活動を行う中で、骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷以外にも、出血や脳震盪なども起こるため、それらの処置の行い方、対応の仕方もしっかりと勉強しておくことが大切だと感じました。



支部長 矢口 栄司

第72回 高体連第4支部 学年別柔道大会

令和4年9月19日(日) 日本工学院八王子専門学校にて、「高体連第4支部柔道大会」の救護活動に参加してきました。当会から、井上勝事業部長と矢口の2名で参加。コロナ渦という事もあり、感染対策を取りながらの開催でした。

ここ数年、学生スポーツも再開ははじめましたが、“with コロナ”のスタンスは暫く続きそう? 今後

はスタンダード化されるのだと感じました。

今回は参加人数も少ない中、団体戦が行われました。白熱した対戦が続き、傷病者が 1 名。膝の内側靭帯損傷が疑われる選手に対し、応急手当を施しました。普段は、自院の中での時間が長いので、こうやって公益活動を通じて、自身の勉強にもなる現場は、今後も大切にしたいと感じました。



山崎 由紀也

八王子市防災訓練 緊急医療救護所設置運営訓練

令和 4 年 11 月 13 日(日)「八王子市防災訓練 緊急医療救護所設置運営訓練」が、東京医科大学八王子市医療センター敷地内広場にて行われた。参加者は市役所職員・消防職員・医師会・歯科医師会・薬剤師会・柔道整復師会・患者役の地元学生を加えて総勢 70 人あまり。南多摩支部からは矢口支部長・小林会員・山崎の 3 名が参加した。

訓練は地震発生から緊急救護所設置後、傷病ブラインドの患者役約 50 人に対して 1 次トリアージからの流れから、我々は市の職員と連携し、2 次トリアージと傷病者への応急処置を担当した。

今回の訓練は、看護師が招集されていないという設定であった。震災を想定した訓練のため、模擬傷病者の多くは出血を伴う切傷や擦過傷が中心であり、我々の業務範囲に該当する患者は 1

割にも満たなかった。そんな状況の中、止血や創傷部位の洗浄などの処置を我々が担うよう求められた。可能な限り対応したが、決して満足できる結果では無かった。講評の中で指摘されたのは次の点だった。



(1) トリアージの目的は傷病者に対して命を守ることを最優先することである。そのためには押し寄せる多くの傷病者で病院の機能が逼迫され、医療崩壊を防ぐ事が重要である。

(2) 基礎情報である氏名や年齢の確認を徹底すること。

(3) 傷病者に対して START 法に従った手順で対応すること。

今回のこうした状況設定には、行政として柔道整復師は災害医療現場の中でどこまで活用できるかを把握したいという意図を感じた。それは我々への期待の表れであり、医療職の一分野として社会的な期待に応える為にも、こうした訓練には積極的に参加し情報共有する事が大切であると感じた。またトリアージにおける START 法の確認や、救急法からもう一步踏み込んだ、緊急時における止血方法や創傷部の処置などを実践的に学ぶ必要があると感じた。



多摩中央支部

昭島地区長 由本 隆之

ウクライナ人道危機救援募金活動

ウクライナ救援募金に関しましては、都柔整より案内がございましたが、多摩中央支部の活動といたしまして、役員会で協議した結果、支部単独でも有志を募り募金活動を行う事となりましたのでご報告させていただきます。

【募金者 21 名、合計 42,000 円】会員からお預かりしました募金は、令和 4 年 5 月 26 日に

公益社団法人東京都柔道整復師会多摩中央支部として、日本赤十字社に寄付をさせていただきました。

ご協力していただいた会員の皆様、ありがとうございました。一刻も早くウクライナに平和が来るようにお祈り申し上げます。

秋本 寛

立川市総合防災訓練

令和4年10月30日(日)立川市立第三小学校にて「立川市総合防災訓練」が開催されました。当会から伊東支部長をはじめ、金子・佐久間・秋本の4名が参加しました。

訓練はすべて屋外で、病院前のオープンスペースにて救護所を設営したとの設定で実施されました。

医療連携訓練は、医師・歯科医師・薬剤師・柔整師にて構成され、十分な感染対策を行い実施されました。

負傷者が救護所に到着後、受付にて必要事項を確認、ここでゲートコントロールを行い負傷者の流れを管理。その後ドクターによるトリアージを実施し、負傷者の振り分けを行う。外傷者に対して我々柔整師が処置を実施し、最後に薬剤師が薬剤を渡し終了となりました。

当日は天気も良く、暖かな陽気でした。今年の訓練も、緊急時を想定した応急処置を実施するため、固定資材も段ボール・緩衝材・雑誌などの身の回りにある物を使い処置を行いました。

こうした取り組みを訓練で取り入れ実施するこ



とで、日頃より技術を磨き、医療団体とより良い関係性を築くことで、有事の際に備えることは我々柔整師だからできることと考えました。

広報通信担当員 小林 浩樹

小金井市総合防災訓練

令和4年11月6日(日) 小金井市第一中学校に於いて「小金井市総合防災訓練」が、コロナの影響もあり三年ぶりに開催されました。開催にあたり、二か月前から行政と小金井消防署・水道局・陸上自衛隊・地元の企業団体・自治体などと数回会議を開き、またそれとは別に医療救護班として医師会・歯科医師会・薬剤師会・柔整師会の四師会で会議を開き、今回はコロナ患者を想定して発熱の症状がある場合にトリアージブースでどう対応するか、現場で密にならない様、どう傷病者を誘導するかなど綿密に打ち合わせをしました。



当日は当支部から三上会員・佐藤会員・小林が参加しましたが、訓練一週間前から体温・体調の記録を行政に提出を義務付けし、現場ではマスク・手袋・ガウン・フェイスシールドを着用して訓練に臨みました。

医療救護訓練会場には多くの市民が見学に訪れましたが、行政スタッフの指示で密を避け、混乱することなく訓練が行われていきました。我々柔整師会は、一次トリアージで打撲・捻挫等の外傷で、応急処置が必要な傷病者を三角巾のみで患部を固定しました。足をくじいて捻挫の疑いのある傷病者には靴を履いたままで固定するなど、普段の業務では行わないことも緊急の現場では素早く判断し、躊躇なく対応していくことも大事です。また時間が余れば柔整師会が市民向けの応

急処置法の講義を行う予定でしたが、コロナ禍での訓練で三年前とは大きく違う状況設定で行ったので、各診療エリアでは一つ一つ対応の仕方を確認し時間を取って掛けて訓練しました。その結果、市民向け講義は出来ませんでした。が、実際の有事でも考えて行動することが出来るようになったかと思います。また医師会・歯科医師会・薬剤師会との連携や信頼関係もより一層強くなったと感じます。



参加した会員、応援に来てくださった会員、長時間お疲れ様でした。

町田支部

副支部長 村山 靖

支部単位で可能な医接連携

この度、町田支部では地域の拠点病院であり、町田市唯一の公立病院である町田市民病院と協定を締結しました。協定の内容は、公益社団法人 東京都柔道整復師会 町田支部会員から同病院へと紹介状を書いた場合、通常病院で発生する初診時選定療養費が免除になることです。至る経緯をご紹介致します。

令和 4 年 11 月、町田支部は町田市の三師会定例懇親会に来賓として 3 名出席しました。その席で町田市民病院院長と交流する機会があり、医接連携について当会の現状を説明しました。その後同病院の地域連携室にお取次ぎ頂き、上記協定を締結しました。

協定のメリットとしては、現会員には通常診療の助けとなること、そして対外的には公益社団とそ

れ以外の差別化を図ることが出来ることが挙げられます。一連の働きかけのカギは、顔の見える関係を構築したことに尽きます。人と人との繋がりに制約がある昨今ではありますが、地道に地域の連携を構築する作業の重要さを感じました。

武蔵野支部

広報通信担当員 柴田 和幸

令和4年度 三鷹市総合防災訓練

令和4年10月2日(日) 三鷹第7中学校をメイン会場として、「三鷹市総合防災訓練」が開催されました。今回の目玉は、開会后すぐに体育館にて行われた、5 師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会・助産師会・柔道整復師会)による、災害時に於ける救護所での活動内容説明でした。当会から山田前三鷹地区長(現防災担当)が最後に登壇し、パワーポイントを交えて説明いたしました。



たしました。この説明の中では、医師会からの「発災直後のことはもちろん、救護所活動が収束してからのことにも触れて欲しい」との要望を受け、しっかりと説明を行い結びの大役を果たしました。

その後、各ブースを巡るスタンプラリーが行われる中、当会のブースでは災害時の活動内容紹介・防災クイズなどを行うと共に、当会のPRとして活動



内容を詳しく記したチラシ配布を行いました。訪れる市民は後を絶たず、他のブースに比べても盛況のようで、あっという間に閉会を迎えました。ブースに訪れた市民の中からは「体育館での講演の中で一番印象に残り、大変勉強になりました」とのお声をいただき、当日までの準備期間が実を結んだことを実感いたしました。柔道整復師の本分は地域貢献であり、公益社団法人の会員であることを各地域で発信できる場が増えることを切に願っています。

前田 哲

令和4年度 武蔵野市秋季市民柔道大会

令和4年10月10日(月・祝)に武蔵野市総合体育館柔道場にて「秋季市民柔道大会」が開催され、救護班として前田が参加しました。コロナ発症前に行われた大会以来、実に3年ぶりの開催ということもあり、柔道の試合自体が久しぶりと言う子供達がたくさんいました。



この大会には、幼稚園児から高校生までの多くの子供たちが参加しており、試合前には怪我をしないように、しっかりとした準備体操と軽い練習を行った後、試合開始となりました。久しぶりの試合とはいえ、子供たちは元気に熱戦を繰り広げていました。



救護としましては、幸いにも耳の下の切り傷が1名出ただけで他に怪我人も出ず、無事に終了いたしました。コロナ感染者が少し減少傾向の時期だったとはいえ、会場への出入りの際の手指の消毒、会場内でのマスクの着用、声出しの応援禁止、試合の合間に畳の消毒、開会・閉会式や表彰式の時間の簡素化など、感染予防対策を徹底し行われました。

まだまだ、コロナ終息には時間がかかりそうですが、こうして大会が開催された事で少しずつではありますが、以前の生活様式に戻りつつある事を実感しました。

渡邊 政知

第 6 回 ぽんぞう柔道教室

令和 4 年 11 月 13 日(日) 午前 10 時より武蔵野市総合体育館柔道場にて「第 6 回 ぽんぞう柔道教室」が開催され、救護班として参加しました。

コロナ感染症の影響で去年はオンライン開催でしたが、今年度は感染症対策を行いながら 6 団体約 50 名の生徒と指導者約 20 名の参加する開催が実現しました。

ぽんぞう柔道教室では、アスリート・パラアスリートによる講演と実際の練習体験と 6 団体での合同練習会が行われ、指導視覚障害者柔道連盟の初瀬先生・旭化成柔道部副監督の海老先生との乱取りに、多くの生徒が学びを得ようと挑戦をしておりました。今回の救護では大きな怪我も無く無事に終えることが出来ました。

今後はアフターコロナに向け救護方法の見直しや会員に向け、感染症対策などを情報共有し安全に救護活動を行えるように努めていきたいと思えます。

寺島 利彦

武蔵野市総合防災訓練(医療連携訓練)

令和 4 年 10 月 23 日(日) 吉祥寺南病院と隣接する吉祥寺コミュニティセンターにて「武蔵野市総合防災訓練(医療連携訓練)」を実施いたしました。

武蔵野市の医師会・歯科医師会・薬剤師会・助産師会、そして我々柔道整復師会の五師会と、武蔵野市赤十字病院並びに吉祥寺南病院及び武蔵野陽和会病院とで、医療連携訓練を行いました。新型コロナウイルスの影響で三年ぶりの訓練となりましたが、未だに収束してない中でしたので、感染対策を踏まえての訓練開催となりました。



医療連携訓練は、例年通り災害医療コーディネータ活動、受付トリアージ担当訓練、災害医療として重症者・中等症者・軽症者の各エリアの処置やロジスティック担当訓練を実施いたしました。また、今回新たに妊産婦エリア並びに軽症エリアに、コロナの陽性者・濃厚接触者・発熱などのある有症状者エリアが追加設置されました。

三年ぶりの実施とあって、開始当初はトリアージタグの取り扱いや、記録・集計方法・搬送手続きなどで、訓練業務の混乱がありました。

当会会員は、中等症エリアと軽症エリアの二つのエリアに於いて、それぞれ処置担当とロジスティック担当に分かれ、訓練を行いました。傷病者役の負傷者が次々と運ばれて来る中、医師・看護師と共に処置を行いました。またロジスティック担当は、現場活動に必要な連絡・調整・情報収集・記録等を行いました。この他にも、他師会によって災害医療ロジスティック訓練が行われました。



一時間程度の訓練でありましたが、実際の大災害直下の混乱期を想定したものであり、現実には活動するためには最低限必要な訓練と言え、この訓練を通して課題や問題点が確認でき、それを改善していくことで、実際の活動に役立つことを実感しました。

第 20 回 区民健康無料相談

令和 4 年 10 月 2 日(日) 正午から 16 時まで、台東区立生涯学習センター 1 階アトリウムにて、「第 20 回 区民健康無料相談」を台東区・システムシャープさん協力のもと、渡部支部長・有賀会員(事業部長)を中心とした会員十数名にて開催致しました。



コロナ禍にて 3 年ぶりの開催であり、また完全に終息していない中でもあり、不安な気持ちもありました。しかし、晴天にも恵まれた中で開始を迎えると同時に、椅子に座れない程の来場者でいっぱいになる上々のスタートとなりました。

今回も、柔道整復師によるけがや痛みに対しての相談と処置、スポーツ障害への対応・「RICE」などの処置方法、体力測定(元気くん)コーナー、骨密度測定体験コーナー、足底荷重測定体験コーナーといった内容で、来場者はアンケート未回収の方もいましたが凡そ 200 名程でした。年齢は 10 代から 80 代と幅広く、ほとんどの方が全コーナーを受けていて健康への意識の高さを感じました。



今後もこの事業を継続していくにあたり、より良い内容にできる様、そして

区民にもっと柔道整復師をアピール出来る様、支部での勉強会や協議を重ねて参ります。

足立支部

副支部長 白川 純平

第 75 回 足立区柔道大会

令和 4 年 10 月 2 日(日) 東京武道館にて「第 75 回 足立区柔道大会」が開催され、足立支部より川上会員と白川が救護班として参加しました。

未だコロナウイルス感染の懸念がある中での大会ということもあり、各トーナメントが終わり次第速やかに選手が退場する入れ替えを行い、次のトーナメント出場選手が入場し試合をするという、密集を避けての開催となりました。

小学校 1 年生の部から中学校 3 年生の部まで、またそれ以降の高校生から大人は初段・弐段・段外の部に分けられトーナメント戦が行われました。当日は擦過傷 1 名・頭部打撲 2 名・上腕骨骨折の疑い 1 名の計 4 名に救護対応しました。ケガをしたのは、いずれも小・中学生でした。擦過傷以外の 3 名は、低い位置から投げ技をされ、受け身を取り切れず負傷したもので、負傷する瞬間を救護席から目の当たり

にしヒヤリとさせられました。やはりケガをしていたという状態でした。頭部打撲の 2 名は痙攣や気持ち悪さもなく軽傷と判断し、アイシング処置にて様子を見てもらいました。上腕骨骨折の疑いの選手に関しては、クラーメルを用いて上腕上部から手指関節まで包帯固定を施し三角巾により



堤肘。本日中に救急のある医療機関へ受診するよう親御さんに指示をしました。

今回、はじめて持ち込んでみたクラーメルをまさか使用することになるとは思いませんでした。やはり、柔道救護活動に於ける外傷は何が起こるかわからない奥深いものであると感じると共に、不測の事態に対応しなくてはならない事を改めて思い知る事となり良い教訓となりました。

葛飾支部

広報通信担当員 西方 渚

葛飾区防災訓練

令和4年11月20日(日)9時からイムス東京葛飾総合病院及び新小岩中学校に於いて「葛飾区医療救護訓練」が開催され、葛飾支部より有馬支部長・小林丈夫会員・小池会員・角田会員・西方の以上5名が参加致しました。

東京都に直下型 M7の地震が起きたという想定で、医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護師会・柔道整復師会・地元町会・中学生等が参加し、安否確認システムのトライアル実施から始まりました。続く医療救護訓練では、実際に想定したイムス東京葛飾総合病院前トリアージから、軽傷者は徒歩にて新小岩中学校に設置された医



療救護所に誘導され、医師による傷病者のケガの状態確認後に、我々柔道整復師が応急処置を行うという内容で、タグを付けてきた傷病者が次から次へと連れて来られ、骨折ではシーネを当て

固定を行い、脱臼では整復を行い、捻挫・打撲では包帯固定等を行うなど、会員同士で連携してスムーズに手当てをし、約 2 時間半の訓練が終了しました。

いざ災害が起こった時に、自分や家族、施術所の近隣住民の身の安全を守るためにも知識を積み上げ、更に訓練経験も積み上げなくてはと思いました。

